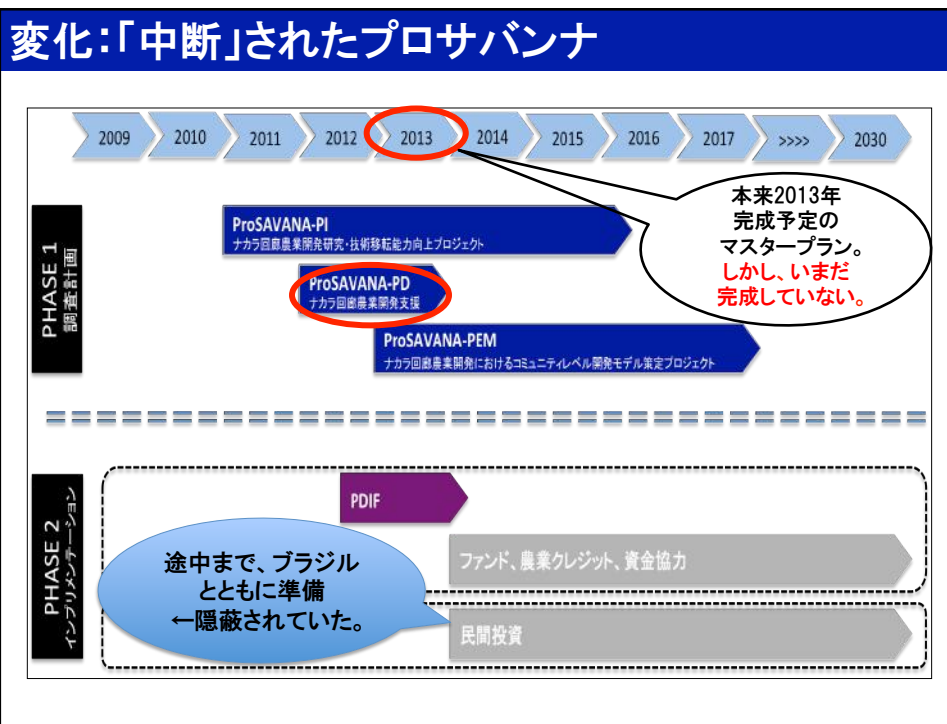




モザンビーク共和国北部



- 日本のODAを使って行われる「日本・ブラジル・モザンビーク三角協力による熱帯サバンナ農業開発プログラム」。2009年9月に三カ国間で合意された。
- ナンブール州、ニアサ州、ザンベジア州の19郡。対象面積は約1,100万ha(日本の全耕地面積の2倍以上)。
- 約400万人に直接的・間接的に裨益すると言われる。



情報開示請求時、JICAに「不存在」として隠された文書不服申し立ての結果、情報公開審査会が開示させた

JICA協賛「ナカラ・ファンド発表会」(ブラジリア、2012年7月4日)

今後のスケジュール

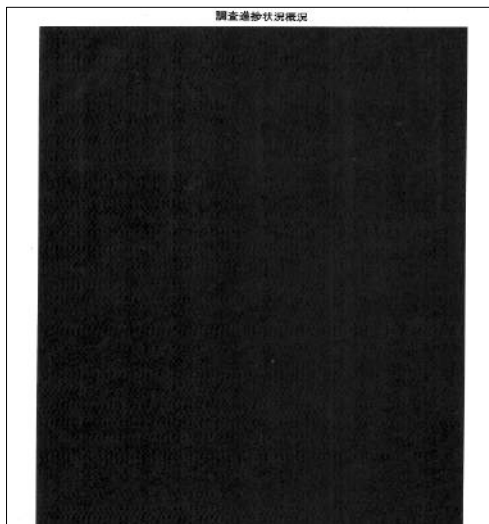
- 2012.6 キックオフミーティング
- 2012.7 ブラジル、モザンビークでの設立構想の発表
- 2012.8~ 三カ国での議論
- 2013.4 ファンドデザイン最終化・ローンチング
- 2013.9 事業への運用準備開始

同発表会のチラシ「FGV…JICAは、ナカラファンドの発表会にご招待します」

JICAアフリカ部作成・報告の「ナカラ・ファンドのスケジュール」

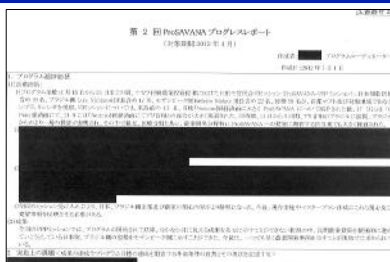
JICAアフリカ部の職員によるFGVのナカラファンドに関する説明スライド (2013年8月24日 第6回モザンビーク北部農業開発意見交換会)

プロサバナ下で何が起きてきたか？④情報隠蔽＝不透明
文献調査：プロサバナ事業と投資(ナカラファンド)



開示請求の結果、提出された文書。

今となり、JICAは「小農支援事業」と言い張るが…
【新資料】JICA調整官「プログレスレポート」2012年5月



「4月16日から21日までの間、ナカラ回廊農業投資促進に向けた日伯モ官民合同ミッション…。**ブラジルからの一層の投資が表明され…**
今回のミッション受け入れにより、

日本、ブラジル側企業及び農家の関心内容がより鮮明になった。…マスタープラン作成にこれら関心及び要望を反映させる必要がある。

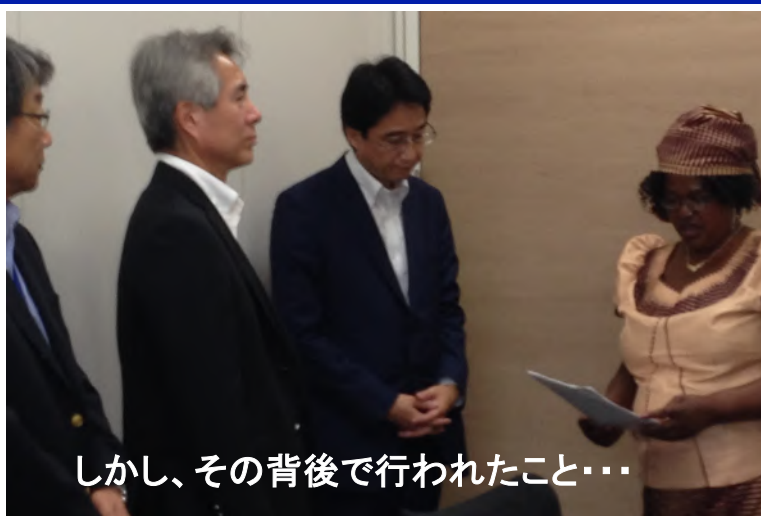
プログラムが開始されて以降、なかなか目に見える成果を先方に示すことができない状況の中、**民間農業投資を積極的に進めていこうとしている日本側、ブラジル側の姿勢をモザンビーク側に示すことができた」**

これらの2012年前半の事態を受け、同年10月、モザンビーク最大の小農運動UNAC(全国農民連合)「プロサバンナに対する声明」の国際社会への発表



これ以降、他のドナー(援助機関)では考えられない、日本の「望まれない大型公共事業」特有の対応が展開・・・
＜＝中止には絶対応じない姿勢の結果、行われたこと？

何度も来日して、日本政府(外務省)とJICAに「プロサバンナ
の中止」を呼びかけるモザンビーク小農運動
外務省課長補佐、JICAアフリカ部 乾英二部長・農村開発部
部長に要請文を手交(2015年7月)



しかし、その背後で行われたこと・・・

JICAによるPD予算を使った、一連の活動 ＝小農の抵抗を削ぐための戦略と活動 ←繰り返しの情報開示請求と内部告発リークで発覚

1. 「コミュニケーション戦略」(CV&A 2013年8月-)

- 小農運動をコミュニティから隔離←行政網を再編
- 小農運動・国内組織の力を削ぐ←2カ国/国際市民社会との断絶
- メディアへの市民組織の影響力を阻害←メディアに資金・「プレスツアー」の提供
- 学术界・研究者の巻き込み

2. モザンビーク市民社会内部の調査(MAJOL 2015年11月-)

- JICA・プロサバンナの同盟先候補の調査とアプローチの提案
- 市民社会内部の対立関係の把握と取り込みへの活用

3. 政府との「対話メカニズム(MCSC)」結成(MAJOL 16年2月-)

- 分断、焦りを生み、取り込み促進し、反対運動の弱体化を狙う

4. MCSC関係者のJICA下請け化(Solidariedade17年10月-)

* JICAによる契約合計額:3100万円(MCSCには2400万円の契約)、その他これに関与した日本のコンサルやJICAスタッフにも巨額の資金が流入

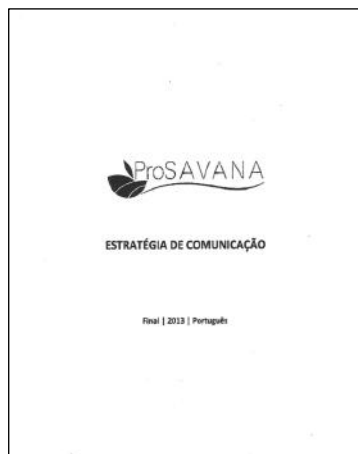
モザンビーク市民社会から、「市民社会介入」「分断」の声

日本政府(JICA)によるプロサバンナ支出額 現在まで34億円近く(すべて税金)＝ツバル国家予算 「大半は日本コンサルタント費用」(JICA, 2018年11月)

	PI(調査技術移転)	PD(マスタープラン)	PEM(パイロット)	総額(2018年7月時点)(円)	Total amount in US Dollars
2010年				3,000,000	30,000
2011年		当初期間内3億3300万円		346,000,000	3,460,000
2012年				243,000,000	2,430,000
2013年				538,000,000	5,380,000
2014年		小農抵抗に対応して以降の支出4億円		542,000,000	5,420,000
2015年				636,000,000	6,360,000
2016年				586,000,000	5,860,000
2017年				243,000,000	2,430,000
2018年	予算→	(5000万円)	(270,000)	(275,000,000)	(2,750,000)
合計/Total	?	742,000,000 7億4200万円	?	3,137,000,000 31億3700万円	31,370,000

プロサバナとは？「コミュニケーション戦略」

JICAの事業「コミュニケーション戦略策定プロジェクト」
2013年8月1日(3ヶ月間、300万円)
モザンビークのコンサルティング企業・CV&A社



Retirando import\u00e2ncia \u00e0s organiza\u00e7\u00f5es da sociedade civil mo\u00e7ambicana, retira-se for\u00e7a \u00e0s ONG estrangeiras a actuar em Mo\u00e7ambique, pois estas reduzem o seu contacto com os media e, conseq\u00fcentemente, a sua influ\u00eancia.

Adicionalmente, seguindo a estrat\u00e9gia de comunica\u00e7\u00e3o que afasta a liga\u00e7\u00e3o do Corredor de Nacala do Cerrado no Brasil, desvaloriza-se alguns dos principais argumentos que estas ONG internacionais t\u00eam utilizado no \u00faltimo ano.

Dever\u00e3o ser feitas actas escritas das reuni\u00f5es, e estas dever\u00e3o estar tamb\u00e9m gravadas em v\u00eddeo e \u00e1udio, de forma a haver provas inat\u00e1veis de quem esteve na reuni\u00e3o, do que disse e da posi\u00e7\u00e3o que tomou.

Relativamente \u00e0 influ\u00eancia que as organiza\u00e7\u00f5es de Sociedade Civil exercem sobre os media em Mo\u00e7ambique, considera-se que a manuten\u00e7\u00e3o de uma comunica\u00e7\u00e3o cont\u00ednua pelo ProSAVANA ir\u00e1 fazer com que diminua a for\u00e7a exercida por essas organiza\u00e7\u00f5es, principalmente as mo\u00e7ambicanas, que s\u00e3o as que olho a cara.

Considera-se ainda que o contacto directo com as comunidades, fazendo prova disso, desvalorizar\u00e1 essas associa\u00e7\u00f5es enquanto porta-vozes das comunidades ou dos agricultores.

- 完成から2016年2月まで知られず JICA公式文書として情報開示
- 「戦略書」を実行に移すための特命随意契約を締結

プロサバナ事業コミュニケーション戦略

Retirando import\u00e2ncia \u00e0s organiza\u00e7\u00f5es da sociedade civil mo\u00e7ambicana, retira-se for\u00e7a \u00e0s ONG estrangeiras a actuar em Mo\u00e7ambique, pois estas reduzem o seu contacto com os media e, conseq\u00fcentemente, a sua influ\u00eancia.

Adicionalmente, seguindo a estrat\u00e9gia de comunica\u00e7\u00e3o que afasta a liga\u00e7\u00e3o do Corredor de Nacala do Cerrado no Brasil, desvaloriza-se alguns dos principais argumentos que estas ONG internacionais t\u00eam utilizado no \u00faltimo ano.

【対訳】

- モザンビーク市民社会諸組織の重要性を奪うことによって、モザンビークで活動する外国 NGO の力を削ぐことができる。さらに、その結果として、これらの組織からのメディアへのコンタクトも減る。
- また、コミュニケーション戦略に従い、ブラジルのセラードとナカラ回廊の結びつきを遠ざけることにより、これらの国際 NGO が去年来使用してきた主要な論点のいくつかに関して信用を低下させることが可能となる。(「戦略書」p. 35)

Contudo, caso a sua influência se mantenha, aconselham-se as seguintes acções:

- Organizar respostas e mensagens que respondam, indirectamente, às preocupações que a sociedade civil organizada identifica;
- Questionar ou criticar (fomentar a crítica, por parte de alguma autoridade moçambicana) o papel que organizações estrangeiras estão a desempenhar em Moçambique.

【対訳】
 それでも、その影響力が継続するならば、以下のアクションを勧める。

- 組織化された市民社会が特定した諸懸念に対して、間接的に、応えるための回答とメッセージを準備すること。
- モザンビークで果たされている外国の諸組織の役割について問題化する、あるいは批判する（この批判については、モザンビーク当局の側によって推進される）。(「戦略書」 p. 35)

O ProSAVANA deve sempre oferecer-se para suportar as despesas, ainda que muitos dos media internacionais não aceitem esta oferta.

【対訳】
 国際メディアの多くがこのような供与を受け入れない傾向にあるとはいえ、プロサバナは、常に（取材）費用支援の供与を行わなければならない。(「戦略書」 p. 34)

プロサバナとは？ 介入、分断

**JICA「市民社会関与プロジェクト」
 中間報告(マッピング結果)
 →「市民社会対話メカニズム」の形成**

Nampula:						
ORAM	Nat'l NGO	In person	✓	✓	✓	Dialogue platform welcome, but involve established structures.
Akizitho	Nat'l NGO	In person	✓	✓	✓	Discussion platform very welcome, but use existing platforms too. Want to "humanise" ProSAVANA. Most of Nampula network against the "No to ProSAVANA" campaign, and not aligned with UNAC.
UPCN Nampula	Provincial Farmers' Union	In person	✓	✓	✓	No to ProSAVANA. Want to co-operate and give input, but the process must start from scratch.

Red No to ProSAVANA, unwilling to dialogue

Purple Will dialogue if certain conditions are met. Most NG's here very clear that these conditions consisted of the following, as best summarized by Action Aid Director Amade Suca: 1) Genuine openness to 'co-create' ProSAVANA, looking at all the issues, 'everything must be on the table'. 2) Discussion must include the development models to be used, including how/if to involve agrobusiness in family-sector focussed agriculture development. 3) Due to doubts that 'co-creation' process can be completed within current deadline, even deadlines must be negotiable. 4) Communications must be improved at all levels. Clear focal points, moments and mechanisms must be created. Most also liked the idea of 3rd party mediation to solve current situation

Yellow No clear institutional position taken on ProSAVANA

Green Supportive of ProSAVANA. Note that every institution coloured 'green' as in favour of ProSAVANA also noted the need for it to change before

<JICA>

- 市民社会の分断について。確かにJICAのほうが現地のコンサルタントの方に、それぞれの農民グループの皆さんの意向というのを、事業を進めていくために、説明するために把握するのはですね・・・色分け・・・は、政治的な意図をもってるとか排除することが目的ではなく、それぞれの考えをもった方々の意見を聞こうとということでしたもの。
- 一部の方々の排除については現地のコンサルタントのペーパーであったかもしれないが、私どもの公式な見解ではないので誤解なきようお願いしたい。

<やりとり>

Q:色分けについてこんなことしないでくれと言ったか？

→誰かを排除することを目的に色分けをしてくれと言っていない。

Q:ならばJICAとして報告書のドラフトを見たときにJICAとしてこれはまずいということと言ったのか。

→今わかるものがない。

Q:JICAが承認した最終文書にこれが残っているかどうか。

→残っている。

Q:これがドラフトとして現地の企業から出され、そのままJICAは最終文書として受領して、契約金を支払ったか？

→支払った。

2018年11月22日院内集会JICA発言より

<https://www.youtube.com/watch?v=qhaN12Jsk9o>

コンサルタントとの契約、TORの特徴：業務内容

3.2 Scope of Services and Tasks

- 1) Grasp overall situation of ProSAVANA, identify key stakeholders, particularly CSOs, and understand their understanding and interest in ProSAVANA through literature review, information collection and interviews with ProSAVANA staff.
- 4) Conduct individual consultations with the stakeholders. Through the individual consultations, those who demonstrate willingness to engage in dialogue on ProSAVANA will be invited to meetings described in 3.7.
- 6) Prepare a report and presentation materials on the results of the individual consultations and interviews with identified major factors of conflict and key areas of mutual interest, suggesting creation of a dialogue platform (stakeholder engagement platform), in order to be shared in preliminary meetings described in 3.7. The report and presentation materials need to be approved by ProSAVANA HQ and JICA prior to the preliminary meetings.

・鍵となるステークホルダー、特にCSOsについて、彼らの理解と考えを把握。

・コンフリクトの主な要因を把握すること。

・それを通じて、「プロサバンナに関する対話への意欲を示している」ステークホルダーを見つけ、事前協議に招待すること。

⇒プロサバンナに「反対の声をあげている」ステークホルダーの排除。

⇒随所に出てくる、事業を進めるにあたって「プロサバンナHQとJICAの事前承認」の必要性

JICA契約請負者MCSC関係者を「市民社会代表」として独立系新聞にインタビューさせる(契約事実を伏せたまま)

Organizações da Sociedade Civil do Niassa, Nampula e Zambézia “libertam-se” de Maputo graças aos dólares do ProSavana

Tema de Fundo - Tema de Fundo
Escrito por **Adérito Caldeira** em 23 Dezembro 2016 (Atualizado em 03 Janeiro 2017)



Desde Fevereiro das províncias baseadas em Moçambique. “Nós temos experiência porque o Governo pensou que sozinho era capaz de fazer (...). Nós queremos estar envolvidos na tomada de decisões sobre este programa do Corredor de Nacala”, declarou ao @Verdade António Mutoua, do Mecanismo de Coordenação da Sociedade Agên norte Form

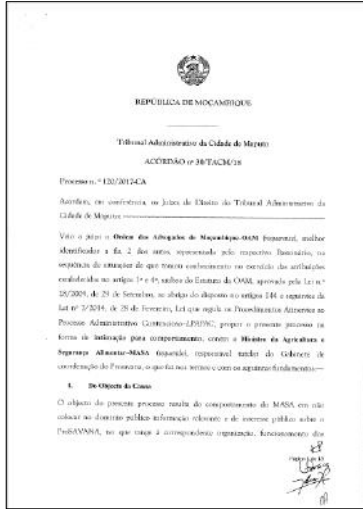
JICA関係者も多数映る中、MCSCコーディネーターで、JICAとの2400万円契約の調印者(SOLIDARIEDADEのアントニオ・ムトゥア氏)が、反対する市民社会関係者を批判し、プロサバナを推進する発言を展開

* JICAとの契約事実を知った新聞社は、後日、「日本大使館のアレンジしたツアーの結果、作成された記事」と加筆し、公表↓

Este artigo foi escrito no âmbito de uma viagem organizada pela Embaixada do Japão

ついに、モザンビーク弁護士会がマプト地方行政裁判所にプロサバナ事業が「知る権利」を侵害している、との判決

2018年8月の判決文



【訴えた側】

- モザンビーク弁護士会 (地元小農・住民や国民の代理)

【訴えられた側】

- モザンビーク農業省(MASA) **プロサバナ調整室 (Gabinete de Coordenação de Prosavana)**

【訴えの根幹】

- 対象地域の住民に**大規模な影響を及ぼす可能性のある開発計画**プロサバナの**人権侵害**

↓

憲法・現行法下の「知る権利」の侵害
訴えの全面認容

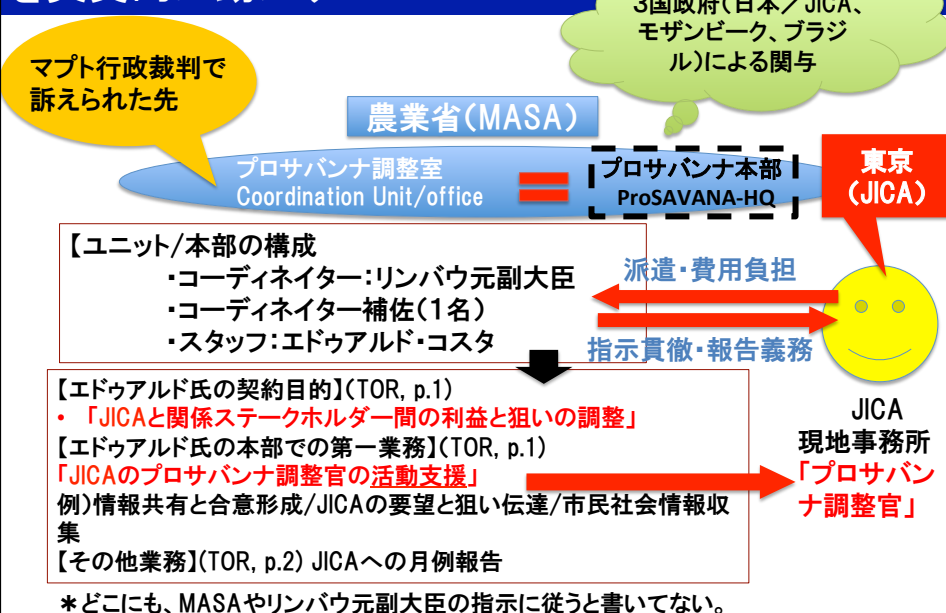
⇨先にあったJICA審査と対照的

プロサバンナや実施組織の違法性、人権侵害が司法認定 ＝JICAは関係を否定、責任なし、知らなかったと主張

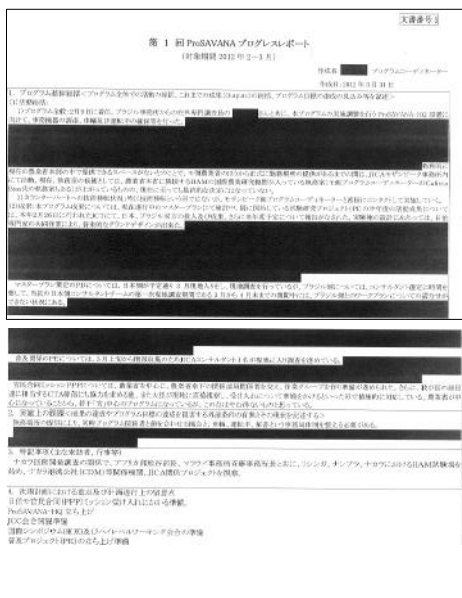
- ・「モザンビーク国内の法律の手続きまた行政に基づいて行われることですので、**基本的にはモザンビークの問題**」(2018年11月22日、JICA央戸健一部長)
- ・「(判決を受けて農業省が裁判所に出した)レターそのものについては、私ども、確認しておりますが、**その(注:根拠資料)内容については、これはモザンビークの政府部内の話でありまして、私ども、確認はしていません。**」(2019年3月19日、ODA特別委員会 JICA本清耕造理事)
- ・「**弁護士協会の記者会見(2018年9月)まで、裁判の事実すら知らなかった**」(2018年11月以降、外務省によるメールでの説明)
- ・「JICAによると、**2018年10月29日にJICAモザンビーク事務所は在モザンビーク日本大使館とともに、モザンビークの農業食料安全保障省から本件について伺った**」(2019年7月23日、ODA政策協議会、青竹首席事務官)

本当にJICAは無関係、モザンビーク政府の問題なのか？
こんな重要なことを、本当に知らなかったのか？

裁判で訴えられたプロサバンナ調整室(本部) を実質的に動かすJICA



プロサバナ本部 (ProSVANA-HQ) と JICA の関係 (JICA 調整官「プログレスレポート」2012 年 2-3 月から)



「ブラジル事務所からの在外専門調査員と共に、本プログラムの実施調整を行う PROSAVANA-HQ 設置に向けて、事務機器の調達、車輛及び運転手の確保等を行った…」

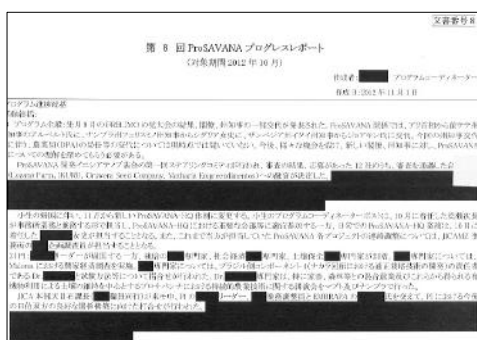
「現在の農業省本部の中で提供できるスペースがないとのことで、…提供があるまでの間は、JICA モザンビーク事務所内にて活動」

≪ JICA の主導、準備。「客」状態のモザンビーク農業省

「4. 次期計画における重点及び計画遂行上の留意点」

- ・日伯モ官民合同 (PPP) ミッション受け入れ
 - ・ProSAVANA-HQ の立ち上げ
- ≪ 4 月の投資促進ミッションのために本部立ち上げを急いだことが分かる

プロサバナ本部 (ProSVANA-HQ) と JICA の関係 (JICA 調整官「プログレスレポート」2012 年 10 月から)



「小生の帰国に伴い、11 月から新しい ProSAVANA-HQ 体制に変更する。小生のプログラムコーディネーターポストは、10 月に着任した梁瀬次長が事務所業務と兼務する形で担当」

≪ JICA のプロサバナ調整官がプロサバナの全般オペレーションを担っていたことが分かる。

≪ 「HQ」が 2012 年 11 月に設置されたのは、JICA モザンビーク事務所内で、JICA 次長が兼務

「日常での ProSAVANA-HQ 業務は、10 月に着任した ● 女史が担当」

≪ JICA 派遣スタッフ (エドゥアルド氏の前任者)

裁判で訴えられたプロサバンナ調整室(本部) 実質的なスタッフはJICA派遣スタッフが担い、 JICAが指示出し・報告先

業務指示書	業務指示書	資料提供:石橋通宏議員事務所
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本部機能強化 2. コミュニケーション戦略 3. 現場調整 	<p>【目的】JICAと関係者間の利害調整</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. JICA調整官のためのプロサバンナ内の調整 2. 本部機能強化支援 3. JICAへの定例報告 	
<p>【両契約一致点】本部機能支援/報告義務・情報提供の先と指示出し元＝JICA現地事務所 【新契約の相違点】JICAの為の利害調整(要望重視)、JICA調整官の活動支援、JICA報告義務</p>		

プロサバンナ本部派遣スタッフの契約の劇的な変化 「JICA資金によるJICAのため」の業務指示の数々 * JICA調整官支援、JICAへの報告義務が主要業務に

前任者の業務指示→変更理由	Eduardo Costa氏への業務指示
<ul style="list-style-type: none"> 2012年からプロサバンナは幅広い市民社会組織に対話の欠如が批判されてきた。2016年には、MASAがマスタープランの公聴会を開催。1年後、MCSCが結成された。 この状況を踏まえ、 「JICAはMASAのプロサバンナ本部(HQ)内に新たなスタッフを配置することで、JICAと関係ステークホルダー間の利益と意向(Intention)を調整する」 	<ol style="list-style-type: none"> 1. プロサバンナ内調整 JICAのプロサバンナ調整官(=JICAスタッフ)による次の活動を支援: <ul style="list-style-type: none"> JICA、モ政府、ブ政府の情報共有や合意形成を促進する(プロサバンナ実施のため) JICAの要望や意向をモ・ブ政府に伝達 プロサバンナに影響を及ぼしうる、政治、政府機関、市民社会、民間セクター、学術界、メディアの活動や現況を収集

**プロサバンナ本部派遣スタッフの契約の劇的な変化
「JICA資金によるJICAのため」の業務指示の数々
* JICA調整官支援、JICAへの報告義務が主要業務に**

2. プロサバンナ本部の機能強化支援

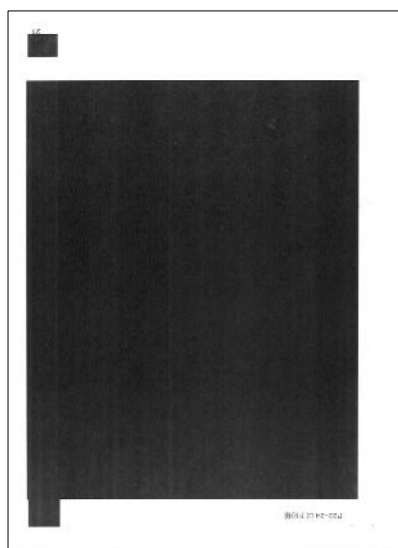
本部による次の点に関する調整を支援

- ・**プロサバンナに関する重要な情報が、MASA幹部内、JICAとブ政府と、タイムリーに共有されることを確実にする**

3. JICAへの定例報告

- ・(Eduardo氏自身の)活動とプロサバンナに関する
進捗に関する**月例報告の提出→JICA**

**プロサバンナ本部派遣スタッフのJICAへの報告書
(左)全頁黒塗り、(右)市民社会の情報収集が分かる**



情報公開法に基づくJICAへの資料開示請求より(2012年12月の報告書)

**隠される情報、何か起さしていたのか？
例)プロサバンナ予算の大半を占める日本のコンサルタントの活動すら全面黒塗り状態のまま**

情報公開法に基づくJICAへの情報開示請求より

結論

**「プロサバンナとは？」=もはや農業開発事業ではない
小農支援どころか、小農いじめ**

小農による異議申立、小農の人権(知る権利)侵害を認定した司法
判断にも真摯に応えず

↑(一方で)

小農抵抗つぶしの戦略・活動に多大な税金と労力を浪費
(市民社会調査に基づく介入、分断、孤立化、賛成派作り)

典型的な日本の「嫌われた公共事業」の展開
例)辺野古新基地建設、過去には原発やダム建設

- 日本以外の他の欧米系ドナーや国際機関の人達は、「なぜJICAは反対の声があるのにヤメないのか？」と疑問だといってます。実際にそれをJICA関係者に聞きに行った人によると、「日本では公共事業は一旦はじめるとヤメられないから」と言われたそう。
- 日本の納税者として、このまま放置していて良いのでしょうか？

さらに、加速化・深化する日本の税金を使った
JICAの農村社会・小農世界への介入・分断統治化

【最新のJICA・外務省の主張(2019年7月23日)】

- 持続可能な農業開発を通じて小規模農家を中心とした地域住民の生活向上に貢献することを目的とした事業
- パイロットプロジェクトでは、参加した農家の収入や収穫量が増加したとの成果も得られ、現地には事業の継続や拡大を望む方々も多数いる。
- 延べ4800世帯が活動にかかわり、現地の農家の方からも喜びの声が多く聞かれている。(外務省国際協力局国別第三課[課長:井関至康]青竹首席事務官)

JICAは、潤沢な資金(PEM:年間2億円~3億円)を使い、分断を農村社会内部、小農間に深め、「賛成派」をつくり出し、事業推進の言い訳や既成事実化のためのプロパガンダに活用 ←納税者は？